

【眼の病気のおはなし】

その⑥ 網膜の病気（２）「糖尿病網膜症」

高血糖が続いていると、血液がドロドロになり血管の中で詰まりやすくなります。糖尿病を長くわずらっていると毛細血管が体のあちこちで詰まって合併症を起こします。網膜の毛細血管が詰まるとはじめは小さな出血やしみを生じて放置すると網膜がどんどん傷んで視力が低下します。糖尿病網膜症は初期には自覚症状は無く、進行して治療が困難になってしまった頃に視力低下が初めてあらわれます。そのため、糖尿病の診断を受けている方は眼の自覚症状が無くとも定期的な眼科検査が欠かせません。眼の自覚症状がないことで放置していて、眼科初診ですでに進行した網膜症が発見されることもあります。もちろん、内科を受診して全身状態の検査を受けることも続けて下さい。

なお、一般的な健診の眼底写真では撮影できる範囲に限界があります。網膜症の有無は眼科でのみ全領域の判定が可能です。ですから糖尿病の方は、過去の健診で「眼底異常無し」の判定をうけていてもあらためて眼科を受診してみてください。

糖尿病網膜症

初 期 毛細血管の瘤（ちいさなこぶ）
(単純型) 網膜の点状出血
硬性白斑（しみ）

自覚症状無し

中 期 軟性白斑（網膜の虚血）
(前増殖) 血管走行の異常
血液が流れない部位の出現

症状は無いが、
あってもわずか

後 期 網膜新生血管と大きな出血
(増殖型) 硝子体出血
増殖膜
網膜剥離

高度の視力障害
失明のおそれ